



「謙虚」さを支えるもの

新型コロナウイルスの蔓延により、マスクの手放せない日々が続いています。少し古いジョークですが、各国政府が国民にマスクの着用を呼びかける際に使われた文言といえば？

アメリカ「マスクをする人は英雄です」
ドイツ「マスクをすると異性にもますよ」
イタリア「マスクをするとルールです」

日本「みんなマスクしていますよ」
あくまでジョークですが各国の人柄があらわれていて面白いですね。

この日本人特有の「右へならえ」といいう価値観は他国の人から「自己が無い」などと揶揄される事もあるのですが、こういった感染症対策の時、まだ東日本大震災の時などの非常時における規律正しい行動は他国から称賛されるものでもあります。

歐米的価値観のみを取り入れて傍若無人に振舞い、それを格好いいと思っている人が見受けられます。非常に残念に思われます。また「自肃警察」と呼ばれる者らの行いにも謙虚さが全くありません。自分自身のまわりに丁寧に目を配り、他者の迷惑にならない様に留意し、自分の行動を律していく——この公共心あふれる謙虚な姿勢こそ我々日本人が大切にしていくべきものだと思います。

(一峰 義詔)

います。ですのでおのづから自然に対し敬畏の念を持ちます。その畏敬の念が我々の謙虚さや公共心の元になっていきます。対して唯一絶対神を持つ宗教（ユダヤ教、キリスト教・イスラム教）において、人間は神が「手づくり」した特別な存在として認識されています。神と一人一人の人間が契約しているわけで、その契約こそ最も大切にされるべきもので、集団や国といった概念に優先されるのです。

こういった宗教的背景を持たずにその文化の価値観を持たない仏教と多様な神々を祀る新道。その両方の影響のもと、日本の文化は紡がれてきました。そこにおいては人間とはこの大自然を構成する一つの部品という風に我々自身をとらえて

ごえいか

鎌倉流御詠歌を味わう③

【天地のめぐみ】第三番

山河を照らす陽の光

雲間をもるる月の影

万のものに隔てなし

天地の慈悲かぎりなし

作曲 菅原久子 作詞 菅原義道

宗禪寺では毎年除夜の鐘を開催している。除夜の鐘は煩惱の数だけ一〇八回撞くのが正式なようだ。一年の終わりに鐘

を撞いて、この一年は煩惱とおさらばし

ロナであろう。皆が煩い、悩んでいる。

実際には鐘をついただけでコロナとおさらばできるわけではないのであるが、コロナで中止にしていなければ、日本中のお寺でコロナ煩惱退散の鐘が撞かれるわけで、人々の祈りの力が日本中に鳴り響くのである。

四弘誓願文（しぐせいがんもん）というお経に「煩惱無尽誓願断（ほんのうむじんせいがんдан）」の一文がある。「尽きることは無い煩惱を断ち切ることを誓います。」といふ文になる。「ここ」が大切なのだが、煩惱を消し去るのではなく断ち切るという。煩惱が湧き起ころってくることは避けられないのだが、その煩惱にとらわれすぎない部分が大事であるといふことであろうか。コロナが消え去ることはないのだが、コロナにとらわれすぎではないのだが、コロナにとらわれすぎではないといふことでもある。

ことは避けられないのだが、その煩惱にとらわれすぎない部分が大事であるといふことであろうか。コロナが消え去ることではないのだが、コロナにとらわれすぎではないといふことでもある。

コロナ感染者が増加傾向にあつた時期であつたものの、銀杏並木では赤ん坊を連れた家族連れから友人同士やカップルに至るまで、老若男女問わず大勢の人たちが歩いており、写真を撮つたりしながら、晚秋の週末を思い思ひに笑顔で楽しんでいた。そんな姿に触れた私を、思ひがけなく平和な気持ちにさせてくれたことを思い出す。

信号待ちの渋滞もこちらには都合がよく、ほんのひととき車の中からではあつたが秋の明媚を楽しませていただいた。穏やかな自然に包まれてみると、日頃のめぐみがある限り、我々は大丈夫なのだと信じたい。（宗禪寺 高井和正）

もまた同じであつた。

～禅語に学ぶ～ 己を見よ

昨年より続くコロナ禍のなか、新しい年が明けました。本年が皆様にとって心おだやかな年でありますようにお祈り申しあげます。

この「時世」ということもあり、初詣に行くことを控えている方もいらっしゃると思いますが、誰もが真っ先に願うのは、「コロナウイルスが早く収束しますように」ではないでしょうか。私も、一刻も早くこの事態が収束することを切に願っております。

昨年は新型コロナウイルスに翻弄され続けた年でありました。目に見えぬ敵ということもあり、いつどこで感染するかわからない恐怖や、連日報道される感染者数や死亡者数を見ることにより、先に精神がまいってしまつた方も少なからずいたのではないでしょうか。また、誤った情報により、トイレットペーパー

類を朝からお店に並んで買いに行つた方も多いらっしゃると思います。今振り返ってみると、冷静さを欠いていたと思つてしまっていますよね。人は思いもしない緊急事態に遭遇すると、冷静な判断が出来なくなってしまうのです。

照顧脚下

(しょうごきやつか)

または、「脚下照顧」や「看脚下」(かんきやつか)という禅語をお寺の玄関先で

見かけた方もいらっしゃるかと存じます。どれも「足もとをよく見なさい」という言葉ですが、実生活に展開し「履き物をそろえて脱ぎなさい」ということにもなつております。また、「足もとをよく見よ」というのは、「自分自身(自己)をよく見よ」という意味も込められております。履き物が乱れていることに気がつかないほど、あなたの心は乱れていますよ」とさとう

せているのです。

ときに私たちは、自分自身の足で歩いているようで何かに流されて歩いていた

り、誰かの後ろをついて歩いていたりしていることがあります。特に現代の情報化社会では、様々な情報によって流れ地に足がついていない状態になつてしまふこともあるでしょう。

「照顧脚下」という言葉は、時には立ち止まり、何のために、どこに向かつて歩いているのか、そのことをしつかりと

自分自身で見つめなさい、と私たちに問いかけています。

人生を歩んでいく上で不安や迷いは尽きません。そのようなときは立ち止まってもいいのです。自分の足もとをしつかり固め、確かな足取りで新しい一年をとも歩んで行きましょう。

(禅福 尚玄)



禅寺雜記帳

- ◆ 令和三年となりました。本年も羽村臨済会をどうぞよろしくお願ひいたします。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症が世界を覆い、懸念された第三波が日本でも海外でも更に猛威を振るっています。本稿、十二月四日の時点で世界中の感染者は六千三百万人、死亡者は百四十七万人を越えています。日本国内でも感染者は十五万六千人、死亡者は二千二百人以上です。皆様がこの文章を目にされる時には、どれだけ増えているでしょうか。
- ◆ 罹患された方、亡くなられた方、そのご家族に心よりお見舞い申し上げます。
- ◆ まだまだ不便が続きますが、有効なワ

クチンが出来たとの報道も出ており、外國では接種も行われ始めています。効果が本当に有効で、副作用も無ければ良いのですが、日本国内でワクチンが普及するまでにはもうしばらく時間がかかりそうです。それまではマスクや手洗い、うがい、蜜を避け距離を取るなど、基本的な事、出来る事をしつかりやつて、お互に助け合っていきましょう。

◆ 今まで当たり前だった事が、実は当たり前では無かつたという事が良く判つた一年でした。行事という行事は皆中止、親子ですら感染を危惧して会えないとか、目に入れても痛くない程可愛い孫にも会えなくて寂しいといった声も沢山耳にしました。

◆ 「祥」という字は「めでたし」や「さわい」という意味の漢字ですが、意外にもこの字には「わざわい」という意味もあるのです。災いがあつた時、祭壇に生贋いけにえを供えて神様に祈つたところ、災い転じて福と為つた事を表わしたもので、左側の偏、示すが祭壇を、右側の羊が生贋を表わしています。コロナという禍いも、「当たり前」が「有り難い」事なのだと教えてくれたと考へれば、幸いと転じた事になるのかもしれません。一周忌のことを小祥忌、三回忌の事を大祥忌といいます。が、大事な家族を亡くした厄を超えて、法要を嘗み前へ進んでいきました。という意図があるのです。法要には必ず効果があります。コロナ禍の中でこそ、規模は小さくとも法事や供養をして

しまいました。当たり前がどれだけ有り難いことを忘れずに、ひとつひとつの機会を大切にして、これから的人生を送つていきたいものです。

◆ 「祥」という字は「めでたし」や「さわい」という意味の漢字ですが、意外にもこの字には「わざわい」という意味もあるのです。災いがあつた時、祭壇に生贋いけにえを供えて神様に祈つたところ、災い転じて福と為つた事を表わしたもので、左側の偏、示すが祭壇を、右側の羊が生贋を表わしています。コロナという禍いも、「当たり前」が「有り難い」事なのです。と教えてくれたと考へれば、幸いと転じた事になるのかもしれません。一周忌のことを小祥忌、三回忌の事を大祥忌といいます。が、大事な家族を亡くした厄を超えて、法要を嘗み前へ進んでいきました。という意図があるのです。法要には必ず効果があります。コロナ禍の中でこそ、規模は小さくとも法事や供養をして

（禪林 恭山）